バイブルアワー

2026.3/22 SUN 日

START 14:00~15:00

場所 / 恵みキリスト教会札幌

バイブルアワーでは、神様をたたえる賛美と、
あなたにとって最も大切な「福音」を
聖書からお伝えします。
どなたでもお気軽にお越しください。

参加無料

Church

教会は堅苦しくて何かきゅうくつそう... とお考えの方がおられるかもしれませんが、そんなことはありません。初めてという方もお気軽にお越しください！聖書は教会にご用意してあります。

一日が過ぎ、一週間が過ぎ、一年が過ぎて.....いつも、いつも同じことの繰り返しの日々の中。
あなたの心に何か足りないものはありませんか？心の隙間をどのように埋めていますか？

Bible

聖書は今でも世界のベストセラーとして多くの方々に愛読されています。そして人生の最も大切な「生きる意味」と「死後の行き先」を発見されて、素晴らしい人生に変えられた人々が数えられないほどいます。

聖書とは一体どんな書物なのでしょうか？あなたも一度読んでみませんか？

地下鉄：中島公園３番出口から徒歩８分
市　電：中島公園通り駅から徒歩１分

恵みキリスト教会札幌
Grace Church Sapporo

〒064-0811
札幌市中央区南11条西6丁目2-28
電　話：011-513-5656
https://grace-church.or.jp/
＊駐車場・託児あり

ホームページ

Instagram
GRACECHURCHSAPPORO

私たちの教会はエホバの証人（ものみの塔）、モルモン教、統一協会とは関係ありません。

■一寸先は「光」

「一寸先は闇」ということわざがあります。一寸の長さの単位は約3センチですが、私たちは、そんな先のことすら真っ暗で何も見えない、今、この一瞬あとに何が起こるのかさえ全く予測できないという意味です。人間は、明日はおろか、一時間後に何が起こるのかを正確に見通す力すらありません。そこに、常に不安と恐れが付きまとっているのです。

しかし、イエス・キリストは言われました。

「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」
（聖書 ヨハネの福音書8章12節）

なんと、励ましと安らぎに満ちたみことばではありませんか。イエス・キリストは、不安と恐れに付きまとわれた闇ではなく、平安と希望に満ち溢れた光の人生を与えてくださるのです。闇の中に生きる私たちにとって、イエス・キリストこそ必要とされるお方ではないでしょうか。

■私たちを死後の滅びから救うお方

聖書には、私たち人間の死後についてこのように記されています。

「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」（聖書 ヘブル人への手紙9章27節）

私たち自身は救いを必要としている罪人であり、死後、滅びの道を歩んでいるということは事実なのです。私たちはみな嘘をつき、人を憎み、人を簡単に傷つけてしまいます。これは、わたしたちが生まれながら罪を犯す性質を持っているからです。なかでも、私たち人間が犯してきた罪の中で一番大きなものは、天地万物の創造者である神様に背いて生きていることです。私たちが生まれてから死ぬまで犯し続けてきた罪は、一つ残らずすべて神様に覚えられています。そして、死後に地獄で永遠に罪の清算をしなければなりません。

イエス・キリストは、その恐るべき場所に向かっている私たちを救うために、この世に来られ、私たちに代わってその罪を十字架という方法で清算してくださったのです。聖書にはこう書かれています。

「キリスト・イエスは罪人を救うために世に来られた。」
（聖書 テモテへの手紙第一 1章15節）

今から二千年前、神様はご自分のひとり子であるイエス・キリストをこの世にお遣わしになりました。彼は十字架の上で、私たちの犯してきたすべての罪をその身に背負い、私たちが受けるべきであった罪の刑罰を、身代わりに受けてくださったのです。

実に、神の御子イエス・キリストが十字架の上で苦しまれたのは、あなたの罪を赦し、あなたを死後の刑罰から救い、希望の人生と天国へ導くためであったのです。

そして、これが確かなものであることの証として、死後3日目に墓の中よりよみがえられたのです。このようにして、永遠のいのちと天国が実在することを示されたのです。

■私たちは何をすべきなのでしょうか

それは、神様を拒むことをやめて、イエス・キリストを心から信じることです。そうすれば、何を信頼すれば良いのか分からないこの時代において、確かなガイドが与えられ、試練や困難を乗り切る力もいただけるのです。さらに、やがて入る天国の素晴らしさを知って、希望に満ちた人生を送ることができるのです。このイエス・キリストこそあなたにとって絶対に必要な救い主であり、あなたの人生の一寸先を「光」としてくださるお方なのではないでしょうか。

※2011年特別伝道集会「一寸先は光」の内容を一部抜粋